

2025年度 認定こども園 はまであら保育園 自己評価結果報告書

1. 本園の教育・保育目標

こどもたちに力を与える保育

元気（礎の力）生きる基礎となる健全な身体を養う

自立（個の力）自分で出来る、自分でやってみようという気持ちを養う

自律（復の力）葛藤を乗り越え、仲間といることの喜び、手助けをしようとする優しさを養う

表現（多の力）仲間や大人に向けて自分を表現するとともに、社会の中の自分を意識する

2. 2025年度の園全体のテーマ・目標

ゆったりとした環境の中で、個々の生活リズムを整え、心身共に健やかに育っていけるよう配慮する。発達に応じた豊かな遊びを取り入れ、生活やあそびへの意欲を育む。

保育者との信頼関係の基で、基本的な生活習慣の自立の芽を育てる。豊かなあそびの中で健康な身体をつくり、言語の習得をしながら友だちに関心を持って育ちあえるように配慮する。

基本的な生活習慣を身につけ、身の回りのことを自分でしようとする。様々な経験を通して、自分の思いや欲求を言葉で表現しようとする。保育者や友だちと関わりながらみんなとあそぶ楽しさを知る。

様々なあそびを通して基本的な運動機能を高め元気な体をつくる。自己主張をしっかりと、友だちとの葛藤を乗り越え、互いに思いを受け止められるようになる。

健康で安全な生活をする。保育者や友だちとの関わりを深め、喜んで様々な活動に取り組む。思いやりの気持ちを持ち、仲間意識を育てる。

生活やあそびの中で、自分の思いを伝えたり、相手を受け入れたりしながら、友だちとの信頼関係を深める。みんなで1つの目標に向かって、活動する中で一人ひとりが表現し、年長児としての自信をつけていく。

3. 目標・計画の達成及び取り組み状況

| | |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 保育内容の共通認識 | 乳児保育:育児担当の理解 一人ひとりの園児と丁寧に関わりと養護 幼児教育:プロジェクトテーマ保育の理解 遊びや生活、様々な体験を通しての学び |
| 保育教諭の資質向上 | 専門性を高めるための研修への積極的な参加 定期的な園内研修の実施により、保育と支援の理解を深め、協働意識を明確にする。 フラットな職員体制の構築で全職員が共通認識を持ち、協力関係が築けるようにする。 |
| 保護者への支援と連携 | 連絡ノートを活用、保育参加(オープンデー)、保育参観、個人懇談、クラス懇談など行事への参加。 保育内容を保護者と共有する為の説明として「ドキュメンテーション」の掲示を活用する。 「ポートフォリオ」を作成し、こどもの成長を共有する。 子育てに関する相談・援助・個別の支援を積極的に行う。 |
| 地域子育て支援 | 堺市から委託された「乳児家庭全戸訪問事業」で、子育てに関する情報提供や相談などを行う。 園庭開放（ハッピーアンカー）を活用して、未就園の保護者に向けたサポートと共有できる時間を提供していく。 |

| | |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域子育て支援 | 地域子育てサロンや子育てひろばに出向き、地域の子育て支援関係者と連携、協力をしていく。 堺市から委託された「乳児家庭全戸訪問事業」で、子育てに関する情報提供や相談などを行う。 |
| 健康及び安全 | 規則正しい生活習慣を身につける為の支援 健康診断の実施（内科・歯科・聴力検査・視力検査） 尿検査の実施（4・5歳） 感染症対策 災害への備え 安全計画・BCP（事業継続計画）の作成、見直し 定期避難訓練・消火訓練・防犯訓練・交通安全教室（2回） 送迎時の不審者対策および欠席児童の安否確認（保護者に電話で確認） 全職員の心肺蘇生法研修の実施と心肺蘇生グッズの携行 |

4. 認定こども園の総合的な評価結果

職員の保育の資質向上のために、年間を通して多くの園内外の研修に参加してきた。研修内容を職員間で共有し、保育に生かせるよう努めている。

とくに、不適切な保育を防止するための自己チェックにより、職員の関わりが一人一人のこどもを尊重できているのか見直し、適切な関わり方ができるよう話し合いを重ね保育に繋がった。

5. 今後の取り組むべき課題

| | |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 保育内容の充実 | 乳児クラスの担当制、幼児クラスの異年齢保育・同年齢保育の振り返りを行い、教育・保育の質の向上に努める。 記録と評価・反省を繰り返す中で、こどもに必要な環境、健やかな成長のための保育を目指す。 こどもの興味・関心・発達に合わせての環境構成を整えていくことに全職員が意識を持ち取り組む。 不適切な保育が生じないよう園内研修を行い、日々の保育のあり方や環境整備のために、組織的な取組を行っていく。 引き続き、こども一人一人を尊重した教育保育を心がけていく。 |
| 保護者支援 | こどもたちの育ちを保護者と共有する機会（保育参加、参観、個人懇談、育児講座）を実施し、子育てに関する相談・援助・個別の支援を積極的に実施する。 特別な支援の必要なこども（外国籍のこどもも含む）に対し、適切な指導や援助、関わりが持てるようにする。 年長児やその保護者が安心して就学できるような取組を行っていく。 |
| 地域子育て支援の取り組み | 地域の子育て支援の現状とニーズを把握し、寄り添った支援を考えていく。 育児相談の件数の減少を踏まえ、保育園に相談しやすい環境を整えていく。 |
| 環境整備 | こどもが心地よく過ごすことのできる環境をどのようにとらえるか、また衛生管理に対する意識など、職員間の意識の向上が課題。 ICTの導入後機器の見直し、さらに利便性と効率化を意識した取組を進める。 |